

# 第3回 双葉町復興まちづくり委員会

## きずな部会 議事録

■日時：平成24年12月11日（火） 委員会 午後1時00分～午後1時45分  
部会 午後2時00分～午後3時30分  
委員会 午後3時45分～午後4時30分

■場所：双葉町役場埼玉支所 4階4-C

■出席者：きずな部会委員  
事務局（双葉町企画課）

（参照：第3回きずな部会座席表）

### 1. 開会

#### 【高野 泉 部会長】

それでは、きずな部会を行います。委員の皆様方には、遠いところからお越しいただきありがとうございます。時間も限られてます。3時30分までですので、進めてまいります。今日は、出席予定でありました齊藤宗一委員と岡村隆夫副部会長が欠席、それから、北小学校長である松本委員が生活再建部会の会議へ、教育関係者ということでそちらの部会に特別参加することになりました。このようなことで、少数ではありますが、本日の与えられた、「新たなコミュニティの形成について」を審議していきたいと思っておりますので、意見をどしどし出していただきたいと思っております。

### 2. 議事

#### （1）新たなコミュニティの形成について（審議）

#### 【高野 泉 部会長】

それでは、議事に入らせていただきます。1つ目が、「新たなコミュニティの形成について」ということで、事務局の方から説明をお願いします。

#### 【事務局 橋本 靖治】

お世話になります。それでは私、事務局の方から、資料2から4、それから参考資料ということで、今日皆様にお配りしてあります。それぞれ資料番号に沿って、内容を説明させていただきます。まずご覧いただきますのは、資料2。今日の論点を示した内容でございます。「新たなコミュニティの形成について」ということで。前回10月16日第3回委員会で、「今後の審議の進め方について」という中で、全国に避難している双葉町民のコミュニティをどのように維持するかという論点、こういった審議項目が出されまして、これではよろしいのではないかとということで皆様に諮っていただいたところで、皆様に了承していただいたところです。その中で、今日皆様に論点として審議していただきたい事項が2点。

まず1つ目が、避難の長期化が見込まれる中で、双葉町民の間のコミュニティの維持だけでな

37 く、避難先の住民との交流も必要ではないか。2つ目、避難先の住民との交流を進めていくに当  
38 たっては、相手先の土地・住民を知るというだけでなく、双葉町を理解してもらおうといった視点  
39 も必要ではないか。そのためには、具体的にどのような取組が必要か、ということで、資料を別  
40 途用意してございます。

41 資料3をご覧くださいませでしょうか。新たなコミュニティづくりの動きということで、先程  
42 の論点の1の部分について、資料3にまとめてございます。それから事例を掲載したところですが、  
43 ご説明いたします。まず、上段の方ですが、避難先での交流・イベント活動。全国の避難先  
44 において、避難者である双葉町民と避難先住民の交流が積極的に行われております。交流は、主  
45 に避難先の自治体やNPO法人等の支援により実施されていますが、中には、避難先の住民が主  
46 体となって、積極的な交流が図られている場合もあります。事例として、別紙に付けてございま  
47 すが、これは埼玉県加須市、この騎西高校のすぐ近くの事例でございます。「寄り添いステーシ  
48 ョン・こらっせくわっせ双葉」というものが、民間の支援団体の支援によって設置されております。  
49 この施設の中では、双葉町で森製菓というお饅頭屋さん、お菓子屋さんを営んでいた森正夫  
50 さんが、当時双葉で作っていた茶饅頭ですとか、赤飯を製造・販売しているほか、双葉の町民の  
51 方による整膚、これはマッサージなんですけど、マッサージが行われ、双葉町民と避難先住民との  
52 交流の場として活用されています。それで、下の段ですが、避難先自治体を学ぶ活動ということ  
53 で、これは慣れない土地での避難生活が長期化する中で、避難先のことについて知っていただく  
54 ために、双葉町生涯学習課の主催により、郷土文化教室が開催されています。その内容ですが、  
55 開催場所は、福島県内ですと福島市、郡山市、いわき市、会津若松市、白河市。県外ですと、加  
56 須市、つくば市といった、比較的避難住民の方が多くお住まいの都市部で開催されているところ  
57 でございます。その内容につきましては、避難先地域の歴史文化、郷土史などを地元の講師など  
58 から学び、避難先地域の見聞を広める。そういった内容になってございます。回数は、各地ごと  
59 に年2回程度、今年度は実施するという内容です。別紙、次の面にはチラシを、「こらっせくわ  
60 っせ双葉」の、これはオープンしたときのチラシでございます。このときには、コーラスの発表  
61 があつたりですとか、あとは餃子、そういったのも支援団体の方のご協力によって振る舞われた  
62 というような内容でございます。これは今も継続して、オープンして、森製菓さんも、それから  
63 整膚をやっている双葉町民の方もほぼ毎日この支援施設の方で活動をされていらっしゃるところ  
64 でございます。

65 引き続きまして、資料4の説明をいたします。これは、これまで開催しておりました7000人  
66 の復興会議において、町民の方から出た意見・提案を抜粋したものです。それから後ろの方には、出  
67 た意見をすべて整理して掲載してございます。その中で、特に抜粋したものを読み上げます。「避  
68 難先の自治体との交流に関する意見」として、「復興ならぬ福幸」、たぶん福島福島の幸せという意味  
69 で福幸というふうに記載されたんだと思いますが、という意識で新たなコミュニティづくりに目  
70 を向けるべきではないか。次に、「避難先での横のつながりをつくるべき。」「自治体の枠を越えて。」次、「若い世代は、避難地での人とのつながりができることによって、今までのつながりから変化している。」次、「双葉のイベントを再開したい、避難先との共催もあり。」これは、前々回、町民のきずなを守るためには、こういったイベントの開催が必要じゃないかというような意見も町民の方から出ているところでございます。次に、「ずっとこの町、避難先にいるのであれ

75 ば良い。」「人間関係を継続させるのが良いが、今の生活では諦めてしまう現状がある。」これは  
76 おそらくこのまま避難先、皆様もおそらく各避難地にお住まいだと思うんですが、そこにどれだ  
77 けの期間生活するんだと、もしくは、ずっと長く住みたいんだけども、今の居住環境的に長く住  
78 むことができるのかどうなのかという不安もおありになるかと思います。そういったところのご  
79 意見かなと思います。

80 資料これまで2、3、4の説明でした。最後の参考資料というのは、第2回きずな部会の議事概  
81 要をまとめた資料でございます。これは後程、目を通していただければと思います。以上、資料  
82 の説明を終わらせていただきます。

83 【高野 泉 部会長】

84 それでは早速、意見をいただく訳ですが、部会で第1回目のときに、コミュニティの関係を議  
85 論したのですが、内容を見ても、新電話帳だとか、きずな事業で集まれるようなものが欲しいの  
86 ではないかというような話が出ました。これからのコミュニティで、今後どのようにしていった  
87 ら良いのか、その辺を含めた話し合いになるかと思いますので、意見をいただきたいと思います。  
88 今日はメンバーが少ない中ですが、意見をいただければと思います各地区で交流をしたり、イベ  
89 ントをしたり、活動されている中村委員、思ったことでいいですから意見を出して下さい。

90 【中村 富美子 委員】

91 まず私は婦人会で、ここで去年の10月までお世話になっていました。その関係で、加須の商  
92 工会の方、いろいろな子どもたちを支援してくださる平成国際大学の先生方、それから花咲徳栄  
93 高校の先生方とか、みんないっぱい支援していただいて、そこで知り合いになりました。ここに  
94 いるときには、小学校の先生方とコミュニティをとりながら、子どもたちを何とかしたいと言  
95 んで、みんなお願いして歩きました。それで、平成国際大学の高野先生なんですけど、子どもた  
96 ち、高校に、3月、私10月からつくばの方に行っただけなんですけど、それまでに、「高校を受験す  
97 るのに、子どもたちがどこを受けて良いか分かんないし、能力もなくて、どうしたら良いか」と  
98 う相談があったんです。それで、「福島の方に帰りたいけども、仕事の関係で戻れない」、「お父  
99 さんがこっちで仕事始まった」とか。「お母さんもいるんで」と。それで、「能力もないんで、福  
100 島にも帰りたいんだけど福島に行ってもいるところがない」と。「なんとか、ここの学校に入れな  
101 いかな」と、お母さんたちから相談を受けたんです。それで、平成国際大学の高野先生にお願い  
102 したり、商工会の人たちをお願いしたりして、「誰か子どもたちの勉強を見てくれる人はいない  
103 ですか」と言ったら「じゃあ、私らに任せなさい」ということで。それで何度も何度も、加須の  
104 商工会の2階をお借りして話し合いました。それで意外と先生を退職した人がいて、「見てあげ  
105 ましょう」というのを確認して、私はつくばの方に行きました。それで婦人会の方では、そんな  
106 関係で、ここでみんなにお世話になって、1番最初は相馬流れ山踊りを披露したものですから、  
107 ここでは全然、最初は原町から衣装を借りたんですけど、うちの方から持って来なくてね。そ  
108 れでみんなびっくりしてね。陣羽織と陣笠で踊りやった時は、みんなふるさとを思いながら、涙  
109 流しながらやったんですよ。そのときは、いろいろなところから、まだここにたくさん婦人会の人  
110 がいたので、二十何人で踊ったんですよ。そしたらもう、「大変良かった」と言われて、「こん  
111 なのみんなに伝承して、見せてください」と言われて、それからもう何十回もやりました。本当  
112 にボランティアでね。「みんなにお世話になってるから、私らは何もいただきませんよ」という

113 ことでやったんですけど、義援金もいただいたんですけど、私らその義援金ちょうだい、なんて  
114 言ったら、町長は、「早くから言えば、義援金も婦人会の方にあげれるんだろうけど、双葉町  
115 の方に移ったら、そのお金は婦人会のどこさいかねんじゃねえか」と言われて、本当にもう実費で  
116 ね。みんな、本当にもう婦人会の会費は集められない、何にもお金ないんですよ。それで、特別  
117 会計の方から少しずつ崩しながら、弁当代を捻出したりしてやっている。それがだんだんと、み  
118 んな婦人会でやってるよというのでやって、ここで十何回やりましたね。それで、それがずっと  
119 つながりながら、仙台の方の人たちも、私らも思い出の双葉、それから、山梨の方からも、東京  
120 からもって、段々と集まって来て、何度もやったんですけど、このコミュニティ、地区とのね、  
121 ここに来て、まず双葉町にいつ帰れるか分かんないというのもあったものですから、もう5年後  
122 ぐらいには帰れるだろうと内心想ってたんですけど、今日の木村先生の話聞いて、もうダメか  
123 なって思ってるんですけど。今度は私たちが、つくばの方、茨城の方に行ってるんです。そこで、  
124 婦人会の人と、つくばへに行った人たちに、筑波大学の先生が、「転倒防止で体操に来ないか」  
125 と言ったんです。それで双葉町、私ら1番最初に行ったんで、「じゃあ行こうか」と行ったのが、  
126 体操でも1・2・3・4じゃなくて、笑いながらね。本当に転倒防止の体操だから、お金も取らな  
127 いで。それで、週1回やったところに入れていただいた、そのコミュニティですね。それから、  
128 筑波学院大学の先生は、NPOの方から来たのかな、立ち上げてくださって、その人たちもPTA  
129 のお母さんたちが、つくばは公務員の人たちいっぱいいるんで、年寄りとは交われないんだって。  
130 それで、私たちが行ったのは、みんな結構、歳いった人ばかりだったものですから、「年寄りと  
131 話したいんですけど、どうですか」と来たんですよ。「良いですよ。こんなで良かったら」、な  
132 なんていう話で、被災したことも話したりして、そして、そこで並木のPTAと言うんですけど、  
133 PTAで小学校に行って、相馬流れ山踊りをやりながら、みんなで子どもたちに、「これ見せたか  
134 ったね」と言われたんです。お母さんたちとの交流会だったんです。それで、それから今度、お  
135 母さんたちは、「この踊りをぜひ子どもにも」と言って、今度、並木のお祭り、公園でやったん  
136 ですけど、そのときにも、「ぜひやってください」と。そのときには加須の方からは婦人会の人  
137 たちを呼べなかったです。それで一緒につくばに行った家の主人とか、男の人も暇で何にもしな  
138 いでいるんで、相馬流れ山踊り教えるから、みんなやらないかと声を掛けたんです。4人だけや  
139 ってくれて、毎日毎日汗かきながらやって、全部で13人になった。若いお母さんたちも今13  
140 人。頼まれると、全部で13人になります。それで、そんなのやりながら、去年のクリスマスに  
141 は、「100本のクリスマスツリーやるから、ぜひ被災した人出て来ててください。自分の思いを書  
142 いてください」と言われて、そこ行ったんです。それで、「もう早く帰りたい」とか、「ふるさと  
143 に戻りたい」とかいっぱい書いたんです。それで、今度、今年またね、この前の7日に、やっぱ  
144 りクリスマスのツリーを飾るからと先月言われて、「今度は芋版で、さつまいもを切って芋版作  
145 って、自分たち1年間過ぎたけど、それをやって、またツリーを作ってください」と言われて、  
146 行って来たんです。そんなときには、今度は、「自分たち今、自立して、少しずつ1歩1歩進み始  
147 まったよ。ありがとう」というのを、今度ツリーにやって、それで交流を持っています。それから、  
148 大穂の老人クラブの30周年記念ということで、いろいろなゲームをやるんですけど、「双葉のそ  
149 の相馬流れ山踊りを、いろいろなところでやっているのを聞いた。双葉町の人たち、ぜひやって  
150 ください」と言われて、この前、9日の日にやってきました。13人行ったんですけど、たいへん

151 喜ばれながら、今度はまたみんなで話しながら、「つくばの方でも元気に頑張ってください」と  
152 言われながら、地区との交流を深め合っています。以上です。

153 【高野 泉 部会長】

154 要するに、婦人会としては地域住民との交流を行ってきたと。そして、コミュニティづくりを  
155 行ってきたということですね。双葉町は標葉の町で相馬藩なんですけど、「そうまりゅうのやま  
156 おどり」を。

157 【中村 富美子 委員】

158 1番最初は、「そうまながれやま」ではなく「そうまりゅうやまおどりの会」と言われたんです  
159 よ。それで、涙流しながら、「そうじゃないんですよ。そうまながれやまなんですよ」と何度も  
160 何度も言って、やっと覚えていただきました。

161 【高野 泉 部会長】

162 ありがとうございます。

163 【横山 泰仁 氏（重富 秀一 委員代理）】

164 やっぱり、1番問題になっているのは、今仮設住宅に住まれている方と借上げ住宅に住まれて  
165 いる方。比較的仮設住宅に入っている方は、いろいろな支援団体とかいろいろ催し物をやられて  
166 いるように聞いているんですけど、問題は、どこの町村もそうみたいなんですけど、借上げ住宅に  
167 入っている方が、慣れない地域で孤立しているというような話を聞いて、私、今、福島に住んで  
168 るんですけど、仕事の関係で、私は昔から福島にいるもんですから、何ら自分自身は抵抗はない  
169 んですけど。隣の浪江町では、福島に住んでいる方が700人位いるという話で、浪江町の方が  
170 借上げで、町内会で住んでいる方が自治会を立ち上げて、いろいろ交流なさっているという話も  
171 聞いてます。現に、双葉町でも、郡山地区の方が自治会を立ち上げて、いろいろ交流を図って  
172 るというようなことを聞いてますし、そこら辺のポイントを、これからもっと、どういうふうに、  
173 その行政として支援をしていけるかということが1つのポイントだと思います。もう1つは、あ  
174 と避難先の住民との交流も必要ではないかというような視点で捉えると、例えば、双葉町でも公  
175 民館活動を一生懸命やられてましたけど、当然、福島に限って言えば、福島でも当然、公民館の  
176 活動をやられて、その教室とかいろいろやられている訳ですね。そういうふうなものを、その住  
177 んでるところの、例えば、公民館活動の情報をきちんと、その双葉町の住民の方にその情報を提  
178 供して参加を求めるというふうな機会を定期的に、発信していけば、また別な角度から気持ち  
179 も和らいでいくのかなと思います。まずは、そこら辺がどういうふうに、その情報発信としてや  
180 っていけるかだと思っています。以上です。

181 【高野 泉 部会長】

182 確かに、避難されている方で、福島でもさくら仮設で情報発信してます。町のコミュニティづ  
183 くりというか、そういうのも必要な感じがしますね。その辺、公民館として、今泉課長、意見出  
184 していただいて、どういう活動をしているかご説明して下さい。結構やっていますよね。

185 【オブザーバー 今泉 祐一 生涯学習課長】

186 まずは、きずな部会資料3を見ていただきたいと思います。まずは、この資料の説明をさせて  
187 いただきます。避難先自治体を学ぶ活動ということで、ここには、郷土文化教室ということで、  
188 各県内、県外ではこことつくばということで、現在、活動各種学級ということで、活動を実施し

189 ております。これはやはり、ここに挙げました郷土文化につきましては、避難先のことを知ると  
190 いうのが1番だろうということで、生涯学習課としても、この事業を取り上げました。その他に  
191 は、先程、中村委員からもお話ありましたが、相馬流れ山踊りとか、そういうものも含めて、婦  
192 人学級、健康生活学級、あともう1つ、高齢者大学ということで、郷土文化を含めまして、4つ  
193 の学級を24年度には展開させていただいております。ただ、展開にもなかなか限度がございま  
194 して、つい最近は、県外に住んでいる方からも、「私らもこういうものに参加できないのか」だ  
195 とか、「自分たちでできないのか」というようなご意見も最近ありました。それについては、今  
196 度の広報で、ある程度人数がまとまってご連絡いただければ、そのやり方とか、その辺の情報提  
197 供もしますというようなことで、次号の広報には、一緒に、そういうものも広報したいと考えて  
198 しております。この4つの学級でございますけども、今年の5月からスタートさせていただきまし  
199 て、11月末で4つの学級で90回実施いたしました。ここに書いてあるとおり、県内5市、県外  
200 2市ということで7カ所でございますが、計90回開催しております。今後は、冬季期間になり  
201 ますので、12月、今月の中旬ぐらいで、とりあえず一区切りをつけまして、また来年に向けて  
202 のどんな活動が良いのか、その辺も検討しながら進めていきたいと考えております。皆さんがこ  
203 ういう集まれる機会、前にもきずなの部会でも意見として出ましたが、「集まる場所を提供して  
204 もらえて良かった」という意見もございますし、あとは、いろいろ始まったばかりで、なかなか  
205 難しい部分はありますけれども、参加しやすい、または交流しやすいというようなことで、内容  
206 も含めまして、また検討させていただければと考えております。以上です。

207 【高野 泉 部会長】

208 昨日も高齢者大学ありました。高齢者大学の参加が私に通知が来てました。びっくりというか、  
209 俺もこの歳になったのかと感じました。確かにそういうコミュニティというのは必要だと宇杉先  
210 生が言っている。避難者の状況把握をしっかりとやると。判断の先にやることは、1歩1歩状況把  
211 握し、計画を立て、どういうふうを実施するか。これは、確かに必要なことだと私は思います。  
212 3名のお話の中であったのですが、コミュニティ形成というのは、中長期的に、町民や町内会と  
213 いうか団体が、担うべき役割であります。何でも行政行政、私も役所にいたからそう思いますが、  
214 やっぱり、官民連携に向けた課題整理をしていかなければなりません。やはり行政的には限界が  
215 あります。国だって、自分の家庭だってそうですね。息子に、「車買ってほしい」、「何買ってほ  
216 しい」と言われても、自分の懐を見て、できるかできないか判断しないと崩壊します。やはり、  
217 そういった新たなコミュニティづくりというのは、宇杉先生の言ってる状況を把握して、判断し、  
218 自主的に地域に形成していかないと。計画を立派に作ってもやっていけないと思います。です  
219 から、重要なのは、セーフティネットとエンパワーメントが私は必要だと思う。ということは、セ  
220 ーフティネットというのは、誰もが取り残されない、ある人ばかりが恩恵を受けても、残される  
221 人がいたのでは、ダメです。誰も取り残されないことと、エンパワーメントで、被災者の本来の  
222 自立性を促して、コミュニティを図っていかないと、なかなか難しいと思います。

223 【宇杉 和夫 委員】

224 状況把握ということで考えてみるんですけど、例えば、全国の各地に避難している双葉町のコ  
225 ミュニティということで、前にも事務局に確認したけど、全国にどれだけの人がどんなときに来  
226 ているのかというのがまずあって。もちろん、その人たちがこれからどう考えていくかというこ

227 とはあるけれども、1人1人が1年間の中で動いていたデータがあれば、なぜ動いたのかという  
228 のがあって。そこで相当の内容の整理ができる訳です。その整理なくして、いろいろ議論をやっ  
229 ていても、それが必要であるという意見はこの間出したことでしょう。その成果が全然なくて、  
230 いろいろな議論をやっても不十分ですよ。まして、その新たなコミュニティをつくるという話  
231 になると、もちろんそういう議論の方向にあるでしょうけど。今までのコミュニティと今までの  
232 経過の話に立って初めて新しいコミュニティのアイデアがある訳ですからね。状況の把握、そ  
233 して検討の基本的なフローが整理されてないですよ。議事録にこう書いてあるように、ちゃんと  
234 できる仕組みができなければ有効に進まないですよ。そういうコミュニティの基本として、要す  
235 るに、どこに、人口がどれ位で、どういう人がいて、だから新しいコミュニティも含めてするか  
236 ですよ。その現状の内容が分からないのに、どこで集まって何をしようということをやっている  
237 だけでは、本当の内容が進展しないと思うんですけど。それは、1番最初から現状把握が大切  
238 だと話してるでしょう。そういう状況を変える支援の仕組みが必要で、災害復興の中でも資料を  
239 ちゃんと作れるように。それから、そのどういう問題があるのかというのをやっていかないと。  
240 その歯車が進んで行かないと思うんですよ。

241 【高野 泉 部会長】

242 そうですね、1回目の部会から、先生は話されています。

243 【宇杉 和夫 委員】

244 何ができて何ができてないか。必要な資料作成の支援の仕組みも含めて検討して報告すること  
245 が必要です。災害復興ではこの現状把握が仕組みとして疎かにされているのが現状です。

246 【高野 泉 部会長】

247 事務局の方でその辺を入れていただきたいと思います。

248 【岩元 善一 委員】

249 私は双葉町のコミュニティをどうするかということで考えてきたんですけど、今先生がおっし  
250 ゃったから言いにくくなったんだけど、実は、県中地区で、昨年12月に、借上げ住宅の自治  
251 会を立ち上げた。月に1回、いろいろ催し物をしている。それから仙台、会津若松の方からも  
252 参加している。常に300人位集まってるんですよ。毎回もやってる役員には苦勞かけると思う  
253 んですけど。何よりも、催し物よりも、双葉町の人に会いたいということで、私なんか毎回も行  
254 ってる訳ですけどね。それで、こういうふうな役員の方も、ボランティアでやっているの、こ  
255 れを維持・継続していくというのは大変だと思うんだけど、そういった人たちに、何らかの  
256 形で、報酬とか検討できないかということも思ってきました。それから、この自治会に参加して  
257 て、皆さんが言っていることは借上げ住宅と仮設住宅の対応がアンバランスでないかということ  
258 です。大したものもらってないんだけど、仮設の人はいろいろなものをいっぱいもらって  
259 いる。ところが、借上げは何も来ないという不満が噴出している。これ何なんだということだね。  
260 だから、仮設にいる人の半分位は、借上げに住んでる人にも、何とか支援物資を送ってほしい。  
261 これを定期的に、やっていれば、町に対して不満はなかったと思います。それから、これ聞いた  
262 話ですけど、これはぜひ取り上げといてもらいたいですけれども、郡山の富田地区の仮設の  
263 近くに借上げを借りている人が、集会所に遊びに行ってたということだったんだけど、「ある  
264 日突然、ある人から、ここ集会所というのは、仮設の人の集まりだから、あんたら来てもらっ

265 たら困る、ということを言われて、行けなくなっちゃった」と。「行くところがないので、町会  
266 議員との懇談会とか何かあるといったときに、喜久田の仮設に行っている。」そう言ってました。  
267 この辺のところは、やっぱり同じ町民というところで、来たら完全に受け入れてもらいたい。そ  
268 れから、最後でありますけれども、私は、10月は南相馬、それから、11月は会津若松というこ  
269 とで、社会福祉協議会のボランティアで、生活支援員に付いて行ったんですけども、そのときど  
270 の家庭を訪問しても、やっぱり「懐かしいなあ、上がれ上がれ」ということで、話がしたいとい  
271 うことなんです。それで、「帰ってくる時には、また来てください」ということを言うんです。  
272 それは、経費とかいろいろ掛かって大変だと思うんですけども、少なくとも、きめ細やかな支援  
273 要領を作って、月に1回は家庭を訪問して、生活に対する不安とか、行政に対する要求とか、  
274 そうというようなものを吸い上げてはどうかと、そう思ってきました。以上です。

275 【宇杉 和夫 委員】

276 やはり仮設住宅では、基本的にどこにどういうものが建って、入居者がどこからどういうところ  
277 に入ってどう動いたか。借上げ住宅についてもどこにどういう人がいて、もちろん借上げ住宅  
278 については集会所もない訳ですから、どこにどう動いてるかについては、その共通として整理で  
279 きるデータはないかもしれないけれど。そのコミュニケーションするためのセンターがあるところ  
280 とか、ないところとか。そういう物的なものが分かるものは、リストをここに挙げて報告して  
281 ほしい。そこでまた、借上げにも入ってなく、いろいろな形で加須他の地域に入っている場合も  
282 ある訳なんです。そこにいろいろな問題があるということが出てくるんですけど、まず実態の  
283 数値を把握して、どこかを基準とする中で多様な要求に対応する形をどうできるかということ、  
284 まずやる必要があると思うのです。そのためのコミュニティのいろいろ施策をするんですけど、  
285 その母集団、1番大事なところがわからない。もちろん入ってる人は、その人の気持ちの中では  
286 理解しているかもしれませんが。これは、この町の人だけの問題ではなくて、こういうことを起  
287 こした、日本という国の問題もありますので、もう少しきちんと、町だけじゃなくて、避難され  
288 ている方たちが1番大事でしょうけど、もう少し、コンサル等の支援を受けてでも整理する必要  
289 があると思うんですけど。その辺を、少し整理してほしいというのが大事です。考え方としては、  
290 コミュニティと言ったときに、生活再建と、きずな部会があって、こういう人間の関係だけをや  
291 るという形で考えるのではなくて、生活再建は生活再建という形の中でも、やはり人間関係、コ  
292 ミュニティに関係するものも多く、町外に避難している人たちの中でも、仮設に入る人とか、い  
293 ろいろな形のきずなとコミュニティの形がある訳です。きずな部会では、コミュニティという言葉  
294 ときずなを基にして、そのふるさとをどうするかとか、生活再建をどうするかとか、いろい  
295 ろと他の部会と重なってきます。もう少し他の部会との関係が見える全体的なフレームみたいな  
296 やつを考えていくといいと思います。例えば、そのコミュニティは、人間同士のコミュニティだ  
297 けじゃなくて、この地域として関わるもの、例えば地域の歴史とか。コミュニティの場合は人間  
298 と人間だけじゃなくて、地域との結び付きが重要な訳ですね。同じように、1番基本的なのは、  
299 その双葉町の方々が、双葉町の地域の中で、歴史と自然と文化がどういうふうになんて重なってきたか  
300 というのを、今まで整理、正確に把握してきたのかということですよ。整理してきたものと  
301 整理してこなかったものがあると思うんですけど。それを現在の人々が分断した形にならないよ  
302 うに、その次の世代の人につなげるために、こちらでは、例えば、加須では加須の人たちの歴史

303 や文化と一緒に考えましょうということも考えられます。しかし基本はやっぱり、その加須の地  
304 域について学習するのが先じゃなくて、自分たちの地域と文化がどういうものかということ踏  
305 まえることが先だと思います。加須の中でも、こういう文化の中のコミュニティを持った人たち  
306 が、新たなきずなをこのような状況でどう作るかということになると思うんです。そうすると、  
307 ふるさと再建部会と重なるところもあると思うんですよね。その辺の区分けと関連を示さない  
308 いけない。何から基本として考えるかということは、1番最初に決めたかもしれませんが、逐次  
309 重なる部分が重要と考えながらやっていく必要があるのかなというふうに、今回の第3回目で思  
310 いました。

311 **【高野 泉 部会長】**

312 ありがとうございます。自分の文化はどうなのかということで、先生からもありましたし、岩  
313 元委員からは、人とのつながりの関係がありました。県中地区は多人数集まるのですか。

314 **【岩元 善一 委員】**

315 集まりますよ。一番集まる時、あそこの農業センターの施設にいっぱい。200~300人位が集  
316 まったんですよ。というのは、要するに、事務局の役員の方々が。会員の人たちに、今度は何や  
317 りますというのをね、往復はがきでよこすんですよ。郵便で。参加する人は名前書いて出すん  
318 ですけど。やっぱり、それをきめ細かくやってるからだと思うんですけどね。集まる時も、月  
319 に1回集まる場所も決まっていますから。

320 **【中村 富美子 委員】**

321 手紙を出すのにも、守秘義務で、全然分からないですよ。どこに誰が行ってるかも分かん  
322 ないでね。そういうのを、この前電話帳とか、そんなのも話出ましたね。そういうのも浅く広く、  
323 そういうのも作ってほしいと思いますね。

324 **【岩元 善一 委員】**

325 これ最初に、私なんか行った時、事務局の人に言われたんだけど、とにかくあの、知ってる  
326 人に電話かけて下さい。知ってる人から電話をして口コミどんどん増やしていったそうです。そ  
327 れで、事務局だけが住所を把握してるんです。我々は分からないです。それで良いと思います。  
328 住所は事務局が押さえているということです。**【高野 泉 部会長】**

329 新電話帳のようなものにまとめていると思うので、聞いてみたいと思います。

330 **【宇杉 和夫 委員】**

331 動いたときに、どういう町の人たちがどこに動いたとか、その原因は何か。それから、バラバ  
332 ラで動いてると、まとまって動いたところでは、やっぱ、土台が違うと思うんですよ。そう  
333 いうのも、ここでもう少し整理して。

334 **【横山 泰仁 氏（重富 秀一 委員代理）】**

335 あれ、何ですか。前、双葉町で町政懇談会なんて、各区ごとにやられてましたよね。今はもう  
336 個人バラバラになっちゃって、その機能というのは、今ストップしてるんですか。もう、やられ  
337 てるんですか。

338 **【高野 泉 部会長】**

339 今は町政懇談会はやってないでしょ。1回各仮設で行ったよね。

340 **【オブザーバー 今泉 祐一 生涯教育課長】**

341 直接の部署ではないですけど、町政懇談会は行っております。あとは、こういう、全国に避難  
342 している状況だということで、町民の意見も聞くのが一番重要だということで、その都市都市、  
343 県内・県外も含めて、以前やりました。

344 【高野 泉 部会長】

345 これは大切だと思います。先生も言ってたけど、状況把握するには、町民から吸い上げないと。  
346 それから状況を把握する。

347 【宇杉 和夫 委員】

348 意見吸い上げる前に、町民がどのようにどんなふうについて、どういった形というね。皆さん分  
349 かっているのかどうか分かりませんが。

350 【高野 泉 部会長】

351 要するに要望とか意見の状況確認をする意味では、町政懇談会が必要でしょ。

352 【横山 泰仁 氏（重富 秀一 委員代理）】

353 そうですよ。今たぶん、各町村でもいろいろな問題があったのが、住民説明会とか各地区で  
354 頻繁にやられていると思うんですけど、それは問題を絞った住民説明会であって、そのもっと上  
355 のレベルで、今後、じゃあ双葉町でどうするんだという。双葉町でやられてた町政懇談会みたい  
356 なやつは、引き続きやられていった方が良くないかなと思いますよね。

357 【宇杉 和夫 委員】

358 コミュニティやきずなの仕組みを組み立てていった上で、仮の町かどうか分かりませんが、  
359 県外の人なのか、県内なのか、町の中か、それがどうできるかという形に結び付いていく訳です  
360 よね。

361 【高野 泉 部会長】

362 つながりの維持ですね。今までのつながりと、それから、新たなつながりをしていかないと、  
363 地域のコミュニティはつくれない。その2つのつながりが、今までの維持と新たな維持。あとは、  
364 地域に根差した維持もありますので、新たなコミュニティ形成をまとめていかなければならない。  
365 安全・安心に暮らし続けるには、地域コミュニティづくりが大切じゃないかと思います。孤独死  
366 したり、高齢者がそうなったりするのではなく、助け合ったコミュニティ。ですから、被災者が  
367 安心して住める住まいの確保、それから、きずな・コミュニティを大切にしたい、新たなコミュニ  
368 ティづくりを、していかなければならないというのが、皆さんの意見だと思います。それから、  
369 もう1つは、分野に捉われない、共生型地域コミュニティづくりもしていかなければなりません  
370 し、それから、岩元委員から発言あった、「ここは集会所だから、あなたは違うよ」と。避難所  
371 と仮設住宅、あるいは借上げ住宅で、居場所が違っても関係なく、つながりの継続と必要な支援  
372 をしないと、本当のコミュニティづくりというのはできない。「ここは我々の仮設だから、借上  
373 げの人は来てはいけない」という話になったのではいけないと思うのです。特に、高齢化社会が  
374 問題になっていますけれど、それが問題ではなくて、その状況。あったにしても、それは他人事  
375 としてはダメなんです。住民の方々も我々の問題として取り上げないと、自分だけが良い、他人  
376 は構わないということになってはダメなんです。新電話帳とかもあるけれど、情報はこれから作  
377 っていかなければならないと思います。そうした時に、個人情報もありますけど、自分の情報は  
378 知られたくない、他人の情報は知りたい、これは人間誰でもそうですから。そうではなくて、お

379 互いに情報を出して連絡体制を取れるようにみんなで取り組まないといけないと思うのです。それ  
380 れができれば、コミュニティ形成はしていける。ですから、宇杉先生も言ってますが、そういった  
381 状況を、今どういう状況でどうなのか、そして、住民の方がどのような要望をしているのか、  
382 それを把握すれば、住民のニーズに応じていけると思います。

383 【宇杉 和夫 委員】

384 私は空間計画が専門ですから、その視点で言えばやはり、何らかの形の施設が、現状の双葉町  
385 の地域の中にも、必要だと思うんです。一方、福島県内にいろいろな形態で仮居住されている方々  
386 にはネットワークがない人も含めてのコミュニティシステムとして何かが必要だと思うし、さら  
387 に県外に出られた方もまたその人たちの意思がありますので、その人たちにも物的な空間のシス  
388 テムが必要だと思うんですね。そういったときに、今お話があったようなもの、情報に関する基  
389 本的なシステムが重なってくる訳ですよ。その人たちにどう支援するかという問いの大前提と  
390 しては、どこにどれ位の人がいて、今までどれだけ困って、どう動いて、これからこんなことを  
391 考えていてそれを実現するにも今何が困っているのか。一番最初は、皆さんが会った時に今どこ  
392 に居らっしゃいますかと聞くことだということでしたが、これが重要です。このみんなの共通す  
393 る質問に大事な問題、どういう問題があるかということ、少し資料として整理分析して踏まえて  
394 いくと様々な問題がそこにつながっていくんじゃないかなというふうに思います。それ全体が  
395 きずなの基本となる第一の検討課題でしょう。

396 【高野 泉 部会長】

397 その辺を役所の方で整理していただいて、一番最初のコミュニティの話に行くんですね。やは  
398 り、情報の電話帳と、あと、きずな事業で、年1回でも良いから、盆踊りだとか、そういった集  
399 まれるような交流の場もやはりほしいというのがあった。企画課でまとめてくれたきずな部会の  
400 資料4を見ていただけますか。これは7000人の復興会議で出た意見をまとめたもの。5つ出て  
401 ます、避難先の自治体との交流に関することもやっていかないと。あるいは、今、宇杉先生も言  
402 っていた意見の1つをまとめたのと同じだと思うんです。いろいろな資料が付いてます。きずな  
403 部会では何をするんだとなれば、一番最初に皆さんから出た情報の新電話帳とか、町民全員が年  
404 に1回集まれるような催しです。このような方法で考えていくのが、いいのかと思います。

405 【岩元 善一 委員】

406 結局、伝統文化にしても、コミュニティにしても、仮の町をどうするかだと思います。1ヵ所  
407 にこう住むんだということになれば解決するんですよ。ところが、実際には分散型にならざるを  
408 得ないだろうということで検討しているんでしょう、たぶんね。だから、難しいと思うんだよね。  
409 本当に、さっき中村委員とも言ったんだけどね。検討のしようがない。答えがない。

410 【中村 富美子 委員】

411 ダメだよ。私が一番思うのは、町会議員がもう出なくなったでしょう、委員のね。あれが私引  
412 っ掛かってるんですよ。自分たちで、みんなでまちづくりをやろうという時に、町会議員が欠席  
413 しているなんて。みんなでやろうという時に、町会議員の方が、「俺は欠席です」なんて言って  
414 たら、双葉町ができないじゃないですか。これを持ち帰って、みんなで話をすると、「できる訳  
415 ねえべ」と言われるんですよ。 「いくらやったってこんなのできねえよ」とか、こう言われる  
416 のね。「そうじゃなくて、みんないろいろ意見出して」と言うと、「そんなのやったって、できっ

417 かい」とか言うのね。「おらいかねえよ」と。若い人たちなんて「福島なんか行かねえ」とか言  
418 うでしょう。だから、根本から本当に、このきずなが壊れてきているんですよね、目的が。大丈  
419 夫だよというのはないしね。どうすれば良いかと。

420 【高野 泉 部会長】

421 町会議員の関係は私も分かりません。それはそれとして、できるところから、できる人でやらな  
422 いと進みません。

423 【中村 富美子 委員】

424 だって、これはでき上がったら、今度は町長に答申するんでしょ。町長と議員たちが話して、  
425 やるんでしょ。

426 【高野 泉 部会長】

427 たぶんそうだと思います。町議会にかけるでしょうね。

428 【中村 富美子 委員】

429 それで、上はどうなっているのか。何だか悲しい。

430 【高野 泉 部会長】

431 保留、一例もあるということで。

432 【宇杉 和夫 委員】

433 町会議員の話は別にやっていただくとしても、やはり 7000 人のコミュニティの問題というの  
434 はあるし、場所だけでなく年齢の構成もその時の要求も変わります。それをどうするかについて  
435 は、基本的な時期を決めて変化を把握することが重要です。変化にも基本的な構造、共通する形  
436 式があると思います。一方その中で変わらないものもあります。順序を追って整理することが重  
437 要です。それを深くできるかではなくて、順序を整理して、追ってやるのが結果をもたらしま  
438 す。難しいという訳ではなくて、仕組みの問題であって、うまく整理すれば、うまくいく可能性  
439 もある。災害被災という特別の時期にはすぐ結果を求めがちですが、災害時こそ、現状把握が、  
440 現状打開の方法としても国民合意の問題でも、次の世代への記録継承の問題でも重要なのです。  
441 大変でも、コンサルに限らず、支援グループの支援を受けてでもやる課題であり、できない話で  
442 はないと思う。

443 【高野 泉 部会長】

444 中村委員が言われたことも一理なんですね。それは、我々は 7000 人の意見を聞いて、そして  
445 審議する。まちづくり委員のメンバーということでやっていきましょう。町長との政治的な関係  
446 もあるでしょうし、そこに入ったら、今度何もできなくなってしまう。

447 【中村 富美子 委員】

448 だから、みんな足引っ張るじゃないけど、「何しに来てんだ」と言われるから。だから、「そう  
449 でなくて、双葉町のためにみんなで」と話はするんですけど、それでも。悲しい。

450 【高野 泉 部会長】

451 まちづくり委員会の人は評判悪いとか言ってるのを私も聞きました。残念です。

452 【中村 富美子 委員】

453 私もそう言われます。

454 【高野 泉 部会長】

455 我々委員は一生懸命やっけていて、悪いことをしているみたいでね。私も正直言われました。そ  
456 んなことを言われても話の内容は何だか分かりません。私は、逆に話をしないようにしています。  
457 ただ与えられたのは全うして行きましょう。

458 【岩元 善一 委員】

459 実はそのことは、この後の委員会で質問しようかと思っていたんだ。とんでもない話。

460 【高野 泉 部会長】

461 やはり何か聞いているんですね。

462 【岩元 善一 委員】

463 いや、聞かない。聞かないから。

464 【高野 泉 部会長】

465 いろいろ言われているというのは、委員の人のことですね。

466 【岩元 善一 委員】

467 質問したいのは、何べんも言うけれども、要するに、議会を代表して、町長から委嘱状をもら  
468 ってOKした訳だ。それなのに、第3回以降ずっと欠席している。たぶん公務で多忙なんですよ。  
469 だけど、これに対して、事務局では、出席を要請しているのか。何らかの理由があって欠席して  
470 いるのか。そういったこと。議会の意思を反映させようということによって代表として来ているんでし  
471 ょう。反対意見があれば、出席して反対して、あるいは修正していく。欠席というのは、職務放  
472 棄だと思います。

473 【高野 泉 部会長】

474 それはそれとして。我々は、与えられたものをきっちり、立派に進めていくことにしましょ  
475 う。議会関係まで入ろうとは私も思いません。町民のために1時間何十万もするような先生まで  
476 来ていただいています。県の方も来ている訳ですから、双葉町を立派に整えられるよう頑張りまし  
477 ょう。我々は町民の幸せを永久にさせてあげたい。それをしてあげられれば良いでしょう。きず  
478 な事業で、孤独死しないように、高齢者の方もいますし、みんなで笑っていけるような家庭で、  
479 もちろん人と人とのきずなも大切ですけど、各家庭のきずな、そういったきずなの蓄積があって、  
480 人とのかきずなができる訳であります。それから地域とのきずな、双葉郡とのきずな、そして福島  
481 県とのきずな、国とのきずながあって、初めてみんなで幸せを分かち合えることだと思うので、  
482 その辺をきちっとまとめましょう。みんなできずなを確かめ合っていけば良いのかと思いますの  
483 で、進めていきたいと思います。

484 【事務局 橋本 靖治】

485 申し訳ありません。資料の追加で、先程、宇杉先生からお話があった、今避難者が全国にどれ  
486 位分布しているかということが把握できる資料と、仮設住宅にどれ位の方が入居されるのかとい  
487 う資料を追加で。全国の分布は、12月の資料と9月にまとめた資料と同じものを、日付が変わ  
488 っていて、どう変わっているかというのをご理解いただけるように、今回配布させていただきま  
489 した。こういう資料がないよということですよ。

490 【高野 泉 部会長】

491 きずな部会はまとまったような感じです。少数精鋭チームで。

492 【大住 宗重 委員】

493 コミュニティ、町民間のコミュニティはやはり避難先のも大事ですが、まず町民同士のコミュニ  
494 ニティは、今避難している状況として、福島県内に半数以上はいますので、そういったまとま  
495 った地域と、それから、北海道から九州まで全国に避難しているということで、避難の形態によっ  
496 て、コミュニティのやり方も変わってくると思います。福島県内に仮設、借上げはバラバラにな  
497 っているんですが、やはり、仮設はある程度まとまっているから良いのですが、借上げは、先程  
498 自治体の話も出ましたとおり、県中それから県北のここ最近、自治会を立ち上げて、自らそうい  
499 った自治会組織を結成しようという、まとまりが大切かなと感じます。町でももちろん、いろい  
500 ろな面でバックアップは、規約等の作成とか、そういったことはアドバイスしているようですの  
501 で、やはり、住民の皆さんには、自ら自分たちのコミュニティを借上げの方だけでやろうという  
502 気持ちがありますんで、その辺は非常に町でも、規約とか今までの細かい経験を、アドバイスし  
503 ながらやっておりますんで、そういうまとまった地域のアパートにいる方などは、そういった自  
504 治会も立ち上げるといのは、非常に大事かなと思います。それから、全国にいる避難者、今ち  
505 ょうど配られております資料のとおり、非常に少数で行ってます。こういうところをどうするか  
506 というのが課題になっておりまして、ここも先程、企画課から説明がありましたとおりで、加須  
507 市で、「こらっせくわっせ双葉」のような避難者同士が集まれる場所の確保も非常に大事かなと。  
508 私は柏崎に前に行った時に、柏崎は震災の経験もあるせいか、そういう集まる場所を早くに立ち上  
509 げてくれたというので、柏崎の避難している避難者同士が集まれる場所をつくって、双葉町民に  
510 限らず、福島県の避難者と交流ができたという良い事例もあります。それで、全国のそういった  
511 方は、双葉町民に限らず、この福島県の避難者同士でコミュニケーションを図れるような場所を  
512 どうするかというので、この辺が課題なのかなと。その辺は、NPO が今、積極的にやっております  
513 が、そういう小さいところにはなかなか手が届いていないというのが現状です。それから、  
514 町民同士のは当然、その辺課題であります。今度その避難先の地元との交流、中村委員からも、  
515 実際の体験を踏まえた良い取組を紹介いただきまして、やはり、自分たちがその避難先でできる  
516 ことをやり、見つけなくちゃならないのかなと。1年9ヵ月になる訳ですから、当然2年近くにな  
517 ってくると、避難先での自分のできることを見つめながら、地元との交流というのも、非常に  
518 大事なのかなという感じはいたします。それから、先程、今泉課長からありましたとおり、福島  
519 県内とかまとまっているところは、そういった学習の交流でコミュニケーションをより高めてい  
520 くというのが大事かと。これは少ないところでは、なかなか難しい問題があると思うんで、福島  
521 県内のところとか、つくば、加須市とか、まとまっているところで、いろいろな学習とか教室を  
522 取り入れた活動と、当然、長期にわたっての避難も少し予想されますので、双葉町民同士のそう  
523 いった学習の向上というのも、集中している避難先では今後も必要だろうと思います。以上です。

524 【高野 泉 部会長】

525 そうですね。前にも話をしたけれど、やはり、行政には限界があります。住民が自ら何かをす  
526 るんだという、そういう気持ちがないと。自らやることを見つけて、自らやらなければならない  
527 と。それは何かと言うと、行政と協働して初めて、うまくコラボされていく、立派なものができる  
528 んです。協働というのわかりますね。協力して働くことです。要するに、何かの目標を共有し  
529 ながら、ともに力を合わせて活動すれば、100人いれば100人の意見がこうやって出される訳で  
530 す。良い立派な意見が聞けてきます。ですから、取り組んでいかないと、これからは自分ができ

531 るものはやると。そうすると、岩元委員も言いましたけど、各地区で自治会が、できてきますし、  
532 あと委員の方からもありましたが、県中とか県北で自治会ができ、みんなで盛り上げていく。そ  
533 うすると、孤独死とかがなくなり、楽しくなるんです。

534 【岩元 善一 委員】

535 大変申し訳ないけれども、そういうところに参加する人というのは、孤独死はないです。そこ  
536 に参加できない人が問題なんです。そういう人をどうするかなんです。

537 【高野 泉 部会長】

538 そうですね。私が最初に言った、誰もが取り残されないようにしていくことですよね。だから、  
539 それをどうするのかと。それが重要なんです。重要なのは何かと言ったら、状況を把握して、ど  
540 ういう訳で参加できないのか、「ここは仮設住宅の集合ですよ」と言われ借上げ住宅の人が行こ  
541 うと思っても入れない。そう言われりゃ入れないよね。入りづらいし。そういうものを吸い上げ  
542 ていかなければならない。こんなこと言っただけは失礼かもしれないが、災害は、社会の歪み、今ま  
543 でこれは常識だったと思っていたこと、そういった歪みを顕在化させる。要するに、隠れた部分  
544 が明らかになる。災害があったために、そういった状況が分かってきた、というのもあると思う  
545 んです。初めてそういう災害とか環境に置かれたとき、自分の未熟さとかが、初めて分かるので、  
546 今度はそれを活かしていけば、もっと素晴らしいきずな事業が、コミュニティ事業ができると思  
547 います。

548 【宇杉 和夫 委員】

549 もちろん、コミュニティにはいろいろありますが、まず基本は自治会だと思うんですね。それ  
550 に今度は、話題として出ているのが子ども。これと同じように子どもがどう動いたかのデータが  
551 出て来れば良いのですが。一番最初が自治会とすると、今まで双葉町の中で災害が起こる前どう  
552 いう自治会の仕組みがあって、その自治会の方が、その自治会単位に、新しい自治会みたいなも  
553 のをつなげていけるのか、そうではなくて、新しく埼玉とかという避難・仮居住の地域で、それ  
554 も今まで活動してきているかは分かりませんが、新しい仕組みを、自治会というのが一番  
555 いいのかは分かりませんが、一般的に見れば、自治会が一応基本です。それに子どもとか、高齢  
556 者とか、文化交流とか、そういうのがコミュニティの枠組みとして入ってくるのかなと思います。  
557 そういう意味では、隣に住んでいた人たちが一緒に移転してそのあとどうなっていくかとか、そ  
558 ういうものも必要と考えるのかどうかですね。

559 【高野 泉 部会長】

560 ところで、自治会はどの程度出来ているのか。大住課長教えて下さい。県北の自治会は仮設と  
561 借上げ住宅も含めた人たちです。

562 【大住 宗重 委員】

563 仮設では、ほとんどできていますので。仮設はまとまっているという好条件です。

564 【岩元 善一 委員】

565 いわきの自治会は、仮設は仮設だけ。新しく立ち上げたのは、全体で立ち上げた。

566 【高野 泉 部会長】

567 その辺、町ではきちんと情報をつかんでいるのか説明してほしい。

568 【大住 宗重 委員】

569 17 行政区であります。自治会ではないです。従前、震災前は、地区ごとに行政区が 17 に分か  
570 れて、区長が。

571 【宇杉 和夫 委員】

572 その区長とは何をもとに。行政区だけなんですか。もうちょっと説明していただいて。

573 【高野 泉 部会長】

574 震災前は、大字単位で、17 行政区で組織をして自治会を行っていた。

575 【宇杉 和夫 委員】

576 自治会というコミュニティの単位があったのね。

577 【高野 泉 部会長】

578 あったのです。それが震災後は、方部ごとにできて、仮設は仮設のところもあるし、仮設でも、  
579 いわき市の方は、仮設と借上げを含めた自治会をつくろうとしているのでは。

580 【大住 宗重 委員】

581 従来の行政区は 17 ありまして、これは今、行政区の区長が自主的に、年に 1 回から 2 回、交  
582 流会をやっています。震災前の状態の交流会を各行政区でやっています。その後、避難先での仮  
583 設ごととか、借上げの自治会がいくつか県内で、ここ騎西もありますが、つくばもありますけれ  
584 ども、新たな避難先でも組織ができています。そしてもう 1 つ、先程お話がありました、地元と  
585 のコミュニティと、3 つになっちゃうんですかね。

586 【高野 泉 部会長】

587 問題は、福島県内とか、つくばとか、加須とかはできているのですが、全国に散らばっている  
588 人たちのこれをどうするかが。

589 【宇杉 和夫 委員】

590 みんなをですね。

591 【高野 泉 部会長】

592 それをどうするかなんでしょ。

593 【宇杉 和夫 委員】

594 元々の行政区の人たちは、仮に新しい仕組みができれば、当然それは、1 つの大きな双葉町と  
595 いう中では、今までの集落と言いますか、行政区というか、言葉としてではですね。そののつな  
596 がりはそのに変えていくという方向で考えているのか。現在の今の段階で通知ができないとか、  
597 いろいろな問題もありますので、そういう技術的な問題で不可能になっているのか。また一度お  
598 聞きしたことがあります。騎西高校に来られて 1 番最初の頃だったと思いますが。本当に身近な  
599 人に会うと、どなたが亡くなったとか、そういう悲しい話ばかりしか出ないんで、本当に身近な  
600 人に会って聞くのが大変苦しかったということを聞いています。1 番最初の段階ではそうでしょ  
601 うけど、今でも、次の世代の子どもたちのためにも、集落とか、地名は分かりませんけれども、  
602 その辺のものは、新しい仮設住宅等に仮居住して 1 年になり、生活の仮の土台が出てきています  
603 ので、旧の自治会のコミュニティ、隣近所コミュニティの継承はいらないのかということそれも変  
604 に思います。そこに大事な意味があるのかないのかを含めて、もとのコミュニティの仕組みをど  
605 ういうふうに考えるのかというのも、しっかり時間をかけて考え、議論した方が良いかなど。も  
606 ちろん、県外に行かれた人も含めてですよね。

607 【岩元 善一 委員】

608 私も思うんだけど、今、宇杉先生がおっしゃったことね。町の方向性さえきちっと決まれ  
609 ば、みんなどこに行くというのは、みんな案はあると思うんだよ。まず町の方向性をきちっと決  
610 めてもらわないと進まないんじゃないですか。みんなそう思ってると思うよ。みんな、誰々がい  
611 わきに住むとか、俺はもう戻らないとか。少なくとも、私の知っている範囲では、子どものいる  
612 人は仮の町ができても行かないと言う人が多いね。

613 【宇杉 和夫 委員】

614 先程の話にも出ましたように、住めるところと住めないところがあると。具体的には、住める  
615 場所の集落もあるし、住めない集落も出てくる訳ですよ。そういう集落単位の中で、何らかの  
616 つながりが必要だということかと。もちろん、住めるところと住めないところはありますけれども。  
617 先程ちょっと話が出ましたけれども、双葉町という全体としての大きな括りを何よりも優先して、  
618 これは 70 万人という大都市ではない。7000 人という単位のコミュニティはまずは、集落単位と  
619 いうこともあるけれども、集落も大事だけれども、何をコミュニティの合意として優先するかで  
620 す。まずこの状況の中で集落単位は大事じゃないというわけじゃないけど、双葉町では 7000 人  
621 のコミュニティが優先するという考え方だと、全然違ってくると思うんですよ。それをどこか  
622 で示さない。決めるのは町長でしょうけど、大きな括りとしての、双葉町という大きな 7000  
623 人という単位の、自治会といっても、九州にいる人たちの自治会というのは本当に自治会と言え  
624 るかどうかは難しいでしょうけれども、そういう自治会、コミュニティかわかりませんが、  
625 一応 7000 人という単位の、双葉町の中でどこかにつくるにしても、双葉町 7000 人というコミ  
626 ュニティの単位の、何らかのシステムができればと、つくっていくことを優先することで、帰還  
627 する人もいる訳ですね、きずなからすれば。そこら辺はもう少し決めるというかもっと考え方を  
628 整理していかないと。それを中につくるのか、外につくるのかもありますしね。

629 【高野 泉 部会長】

630 何年も帰れないとなると、双葉町が地図上から無くなるのではないかと。図面上には出てくる  
631 けれどもこれは深刻ですよ。いわき市に行こうが、郡山市に行こうが、福島市に行こうが、それ  
632 はあくまで仮だしね。果たして、きずなを通してずっといけるのかと言ったら、それは難しくな  
633 ります。

634 【岩元 善一 委員】

635 さっきの木村先生の話聞くとな。

636 【高野 泉 部会長】

637 はっきり言って難しい。福島県民には戻るかもしれない、私はまだ双葉町の住所ですから。み  
638 んなもそうだと思うんですけど。

639 【岩元 善一 委員】

640 若者が帰らないと、どうしようもないんだし。

641 【中村 富美子 委員】

642 割と年寄りに戻りたいみたいなんだけど、そこんこの若者とお年寄とのコミュニティが崩れ  
643 てるんだよ。だから、「じいちゃん、ばあちゃんは、あっちへ行け。おれたちは戻らないよ」  
644 みたいになって、今ね。結構そういうのが多いですよ。

645 【岩元 善一 委員】

646 我々もそうだけれども、子どもの頃は、「家も土地もあるんだから」と言われ、「長男だから残  
647 れよ」なんて言われたと思うんです。ところが、今の双葉に帰ったって町は壊されて田んぼもな  
648 い家にも住めないとなったら、子どもなんかふるさとと思わなくなってしまう。親は、子どもが  
649 就職して、ここに住むと言われれば、それで良いかとなってしまう。

650 【宇杉 和夫 委員】

651 生活再建であれば、生活再建として双葉町という町から、集団として、加須でも、埼玉のどこ  
652 かに避難または仮居住として移転する、ということは普通のことになるでしょう。すでに福島から  
653 借上げ住宅も含めて個々の方々の相当の数が県外に避難・仮居住している。発電所・放射能の  
654 危険に対する一定の意思があることを否定することはできない。これが制度的に、また県行政の  
655 立場等から全体的な判断の傾向として、広く認められるものに至っていない。また双葉町の自治  
656 体が他県に新たにできる見通しは現在の制度の中ではない訳で。それが仮居住として容易に求め  
657 られるものであれば、相当長い仮居住として移転することができることとなります。福島県外に  
658 行政も含めた主なるコミュニティとして仮居住するということについては制度的な制約の問題  
659 があって、これとは別に人災によって追われた居住者の希望の問題がある。仮に移住としてもそ  
660 れは7000人が一緒になくて、条件があって仮移住する人が3000人位としても、それ以外の4000  
661 人の方々の居住、仮居住の問題と、その方々のふるさととの関係、そして、新たに移住した双葉  
662 町とのコミュニティとしてのつながりの問題もあるわけです。仮の話をしているわけですが、仮  
663 に皆さんの避難・仮居住・仮移住の問題に方向がついたとしても、ふるすとは、やっぱりふるさ  
664 とがなくなっちゃうという基本的な問題はあるわけです。そしてこれがまた将来の双葉町の皆さ  
665 さんのコミュニティの問題に深く関係するわけです。更に子どもたち、将来の子どもたちにとって、  
666 ふるさととの関係がどうなるのか、といった問題もあります。またこれも仮ですが、皆さんが将来、  
667 関係しなくてもよいと判断したとしても、あの領域はあるわけですよ。あの地域の場所、場所性  
668 という問題は残します。ただ、人が住まなくてもふるさとなのかはわかんないけども。あの場所  
669 をどうするかということ誰かが考えなければいけない。

670 【高野 泉 部会長】

671 そういうことです。ふるさと復興だから、あの双葉をどうするかということをやらないと。た  
672 だ、現実として、このままいけば、岩元委員が言ったとおり、若者がいなければ、限界町になっ  
673 て最後は町がなくなります。

674 【宇杉 和夫 委員】

675 住めないけれども空間はある訳ですよ。あれをどうするかを考えなければならない。

676 【高野 泉 部会長】

677 これ我々の年代でやってるからで、10代、20代で委員会をつくったら、みんな帰らないと今  
678 の状況だったら言いますよ。

679 【岩元 善一 委員】

680 だから、今回の会議にも若者は出てこないんだよな。

681 【宇杉 和夫 委員】

682 帰れても帰れなくてもあの空間はあるという課題があります。だから、帰れないから問題だと

683 か、帰れるからということで問題が分かれるわけではなくて、あの空間があって、空間があると  
684 いうことが、外にいる人たちのきずなにどう関係するかということなんですよ。

685 【高野 泉 部会長】

686 だから、戻れるような環境づくりをしないといけないんですよ。そうでしょう。

687 【宇杉 和夫 委員】

688 極端な場合、そこに戻れなくてもですね。そこについて全部戻れなくても、その場所につい  
689 ては誰かが考えなきゃいけないということです。そのときに、今まで住んでいた人たちが、そこ  
690 について考える義務と権利があるかどうか。

691 【横山 泰仁 氏（重富 秀一 委員代理）】

692 そこら辺がはっきりすれば、この全国に避難している双葉町民のコミュニティをどう維持する  
693 かなんてことは、もう別問題になってくるんですよ。当面、みんなバラバラになっている状況で、  
694 それを繋ぎ止めるために、それをどう維持するかという議論だったら良いですけど、その先、5  
695 年先、10 年先を考えた時、間違いなく双葉町は限界集落になって、おそらく部会長が言ったよ  
696 うに、何もしなかったら、もう町はなくなると思いますよね。大熊町のアンケート調査を見ると、  
697 戻りたい人は全体の2割しかいない訳ですから。そしたら、だいたいの町民の考え方は同じだと、  
698 我々は、私は同じなのかなと思っているんですけど。ですから、今、この問題は、このバラバラ  
699 な住民のコミュニティをどう維持するかということと、今後きちっと定住してきた人がその地域  
700 に入って、地域のコミュニティに混ざって間違いなく生活していきますよね。そうすると、双葉  
701 町は何なんだ、というふうになってきますよね。言ってみれば、双葉町のコミュニティなんか関  
702 係なくなる訳ですよ、極論で言うと。ですから、その使い分けですよ。

703 【宇杉 和夫 委員】

704 きずなをプラス・マイナス両方で考えるか、まずはここはプラス面だけを大事にして考えるか  
705 ですね。その二つありますよね。

706 【高野 泉 部会長】

707 大変な問題を受けました。この部会、結論からいけば、やはり最初のときも言いましたけど、  
708 福島に幸せと書いて、福幸（ふっこう）の言葉もある訳です。福島は英語で言えば、Happy Island  
709 だから、幸せな島に帰るんだ、そういう目的でいて、人と人とのつながぎをして、支え合って、助  
710 け合っていきましょう。皆さん、これで頑張ってください。

711

712 （2）その他

713

714 3. 閉 会

715 【高野 泉 部会長】

716 それでは、今日は終わります。どうもご苦労様でした。

717

以上

718

719

# 第3回きずな部会座席表

(敬称略)

高野

泉



1 日時 平成24年12月11日(火)

14:00~15:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階 4-C

中村 富美子



(代理)  
横山 泰仁

宇杉 和夫

岩元 善一

大住 宗重

今泉 祐一



橋本

事務局

西牧

大内

山田

事務局